

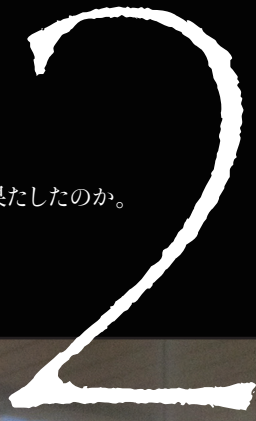
周縁か中心か? — 音楽史の中のベルギー

1830年、ベルギー独立。

オランダ、ドイツ、フランスにとっての「周縁」であり「中心」であったベルギーは、創られゆく音楽史のなかで、いかなる役割を果たしたのか。

21世紀、固定化された西洋音楽史を19世紀ベルギーから見つめなおすことで、

私たちの音楽史観を問い直し、新たな音楽史そして文化史の可能性を探る。



ベルギー人フェティスの
影響はどこまで及ぶ?
ベルギー・ドイツ・フランスの
音楽史言説を比較する。

ロマ ン主義と フェ ティス

第2回

[1830年—
70年]

2019年12月14日 13:00—17:30 国立音楽大学 6号館110スタジオ

第1回の報告と趣旨説明 友利 修(国立音楽大学)

1830年ベルギー独立とモネ劇場 | 岩本和子(神戸大学)

「ネーデルラント」楽派からフランス・フランドル楽派へ — 音楽史記述上の変更をめぐる | 朝山奈津子(弘前大学)

パネルセッション 独・仏・白の音楽史言説 — フェティスの遺産

ベルギーのフェティス、フランスのフェティス | 大迫知佳子(広島文化学園大学/ULB) + 安川智子(北里大学)

「音楽史」の成立 — プレンデルの『イタリア、ドイツおよびフランスにおける音楽の歴史』を中心に | 上山典子(静岡文化芸術大学)

歴史意識とネットワーク — 装置としての音楽史 | 友利 修

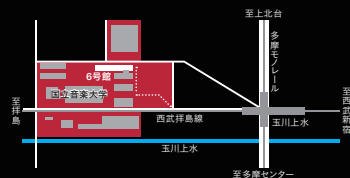
国立音楽大学学生・卒業生有志によるオペラ・コミック抜粋上演(解説付き)

グレートリー(1741—1813)の aria/フェティス(1784—1871):《双子姉妹》(全1幕のオペラ・コミック)より抜粋上演
演奏:新福美咲(ソプラノ)、島田樹里(メゾ・ソプラノ)、陣内みゆき(ピアノ)ほか

全体ディスカッション 進行=椎名亮輔(同志社女子大学)

主催:日本音楽学会 共催:日本ベルギー学会、ベルギー研究会 後援:ベルギー大使館

お問い合わせ:国立音楽大学音楽学研究室 042-535-9572(友利、陣内)



国立音楽大学
〒190-8520 立川市柏町5-5-1
西武拝島線・多摩都市モノレール玉川上水駅より
西武線線路沿い徒歩7分